

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 4 区分
 【発行日】平成 19 年 1 月 25 日 (2007.1.25)

【公開番号】特開 2006-114118 (P2006-114118A)
 【公開日】平成 18 年 4 月 27 日 (2006.4.27)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-017
 【出願番号】特願 2004-300298 (P2004-300298)
 【国際特許分類】

G 1 1 B 23/00 (2006.01)

【F I】

G 1 1 B 23/00 B

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 12 月 1 日 (2006.12.1)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

ディスク状記録媒体の中央孔から先端面が突出して嵌入する保持部と、ディスク状記録媒体の側面を覆う側壁部とを備え、該側壁部におけるディスク状記録媒体との対向面の裏側の外面中央部及び上記保持部の先端面を強磁性体物品に磁気吸着力により取り付けるディスク状記録媒体保持具において、上記磁気吸着力は上記保持部に装着された磁石部材によって確保することを特徴とするディスク状記録媒体保持具

【請求項 2】

上記保持部に装着される磁石部材は、ディスク状記録媒体の側面を覆う側壁部材とその中央部に取り付けられる蓋部材との間に形成される磁石部材収納部に収納されることを特徴とする請求項 1 に記載のディスク状記録媒体保持具

【請求項 3】

上記保持部は、上記側壁部材の略中央部に上記磁石部材収納部を形成すべく磁石部材の外周を覆った状態で立設する蓋部材取り付け壁へ取り付けられる蓋部材で構成されることを特徴とする請求項 2 に記載のディスク状記録媒体

【請求項 4】

上記保持部は、上記側壁部を形成する側壁部材の中央部を突出させて一体的に設けられ、該保持部内面に形成された磁石部材収納部の開放面には蓋部材が取り付けられることを特徴とする請求項 2 に記載のディスク状記録媒体保持具

【請求項 5】

ディスク状記録媒体の中央孔から先端面が突出して嵌入する保持部と、ディスク状記録媒体の側面を覆う側壁部とを備え、該側壁部におけるディスク状記録媒体との対向面の裏側の外面中央部及び上記保持部の先端面を強磁性体物品に磁気吸着力により取り付けるディスク状記録媒体保持具であって、上記磁気吸着力を生じせしめる磁石部材を、その表面を覆うことなく側壁部材に接着にて取り付けられるように形成したことを特徴とするディスク状記録媒体保持具

【請求項 6】

上記保持部の外周部には少なくとも一つの弾性舌片が形成され、該弾性舌片にディスク状記録媒体の中央孔を着脱自在に取り付け可能としたことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載のディスク状記録媒体保持具

【請求項 7】

上記弾性舌片は、保持部を形成する蓋部材における周囲を窪ませて形成した舌片収納部の下端から、断面が略 L 字状に空間部分を介在させて一体的に立ち上げて形成したことを特徴とする請求項 6 に記載のディスク状記録媒体保持具

【請求項 8】

上記弾性舌片は、保持部を形成する蓋部材の周囲から窪ませて設けられた舌片収納部内に位置するように、側壁部材から一体的に突出させて形成したことを特徴とする請求項 6 に記載のディスク状記録媒体保持具

【請求項 9】

上記弾性舌片は、側壁部材の中央部を突出させて一体的に設けられた保持部における周囲から窪ませて設けられた舌片収納部内へ、その上部に形成された舌片貫通用穴を貫通して位置するように、蓋部材の下面から突出させて形成したことを特徴とする請求項 6 に記載のディスク状記録媒体保持具

【請求項 10】

上記磁石部材は、磁石単独或は強磁性体製のヨーク部材を備えた磁石からなることを特徴とする請求項 1～9 のいずれか 1 項に記載のディスク状記録媒体保持具

【請求項 11】

ディスク状記録媒体の中央孔から先端面が突出して嵌入する保持部と、ディスク状記録媒体の側面を覆う側壁部とを備え、該側壁部におけるディスク状記録媒体との対向面の裏側の外面中央部及び上記保持部の先端面を強磁性体物品に磁気吸着力により取り付けるディスク状記録媒体保持具において、上記側壁部の外周には少なくとも一箇所の指掛け用切り欠き部が形成されていることを特徴とするディスク状記録媒体保持具

【請求項 12】

上記指掛け用切り欠き部は、上記請求項 1～10 における側壁部の外周に設けられることを特徴とする請求項 11 に記載のディスク状記録媒体保持具

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明は、ディスク状記録媒体の中央孔から先端面が突出して嵌入する保持部と、ディスク状記録媒体の側面を覆う側壁部とを備え、側壁部におけるディスク状記録媒体との対向面の裏側の外面中央部及び保持部の先端面を強磁性体物品に磁気吸着力により取り付けるディスク状記録媒体保持具において、磁気吸着力は保持部内に装着された磁石部材によって確保するディスク状記録媒体保持具とすることで実現できる。

この構成によれば、磁石がディスク状記録媒体保持具内に収容されるために小型化し、生産コストを減少させることができると共に、ディスク状記録媒体保持具自体を自由な形状にデザインすることができる利点がある。

なお、保持部内に装着される磁石部材は、ディスク状記録媒体の側面を覆う側壁部材とその中央部に取り付けられる蓋部材との間に形成される磁石部材収納部に収納されるようにすればよい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

より具体的には、保持部は、側壁部材の略中央部に磁石部材収納部を形成すべく磁石部材の外周を覆った状態で立設する蓋部材取り付け壁へ取り付けられる蓋部材で構成することで実施することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

なお、ディスク状記録媒体の中央孔から先端面が突出して嵌入する保持部と、ディスク状記録媒体の側面を覆う側壁部とを備え、側壁部におけるディスク状記録媒体との対向面の裏側の外面中央部及び保持部の先端面を強磁性体物品に磁気吸着力により取り付けるディスク状記録媒体保持具であって、磁気吸着力を生じせしめる磁石部材を、その表面を覆うことなく側壁部材に接着にて取り付け構成としてもよく、この場合は蓋部材を省略することができる利点が生じる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

この弾性舌片は、保持部を形成する蓋部材における周囲を窪ませて形成した舌片収納部の下端から、断面が略L字状に空間部分を介在させて一体的に立ち上げて形成するとよい。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

また、弾性舌片は、保持部を形成する蓋部材の周囲から窪ませて設けられた舌片収納部内に位置するように、側壁部材から一体的に突出させて形成することもできる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

さらに弾性舌片は、側壁部材の中央部を突出させて一体的に設けられた保持部における周囲から窪ませて設けられた舌片収納部内へ、その上部に形成された舌片貫通用穴を貫通して位置するように、側壁部材の保持部の内面に形成される磁石部材収納部の開放面に取り付けられる部材であるところの蓋部材の下面から突出させて形成することもできる。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0049

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0049】

図9(a)～図9(d)に示すように、この実施例のディスク状記録媒体保持具61も、側壁部材62、磁石部材63、蓋部材64で構成される。

蓋部材64は、外周を立ち上げて保持部67が設けられ、その外周面には3箇所の凹部で形成される舌片収納部67e, 67e, 67eが設けられており、そこへ上部に突部67d, 67d, 67dを備えた弾性舌片67c, 67c, 67cが、空間部分67f, 67f, 67fを介して先端面64c側を開放するように各舌片収納部67eの下端から、図9(d)に示すように若干浮かした位置から、断面が略L字状で一体的に立ち上げる形体で設けられている。

なお、各弾性舌片67c, 67c, 67c間で形成される突部67d, 67d, 67dの外径はディスク状記録媒体の中央孔より大きくなっており、その根元の径はディスク状記録媒体の中央孔と同等か若干小さく形成される。

また、蓋部材64の各舌片収納部67e, 67e, 67eの内面には磁石部材収納部69が形成される。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0059】

本発明においては、上述した実施例6～実施例7に示した弾性舌片及び指掛け用切り欠き部の数や位置及び形状は、これらの実施例に限らず各種に変形して実施することができるものであり、代表的な形態について説明する。

図13(a)は本発明の実施例9を表わす底面図であり、このディスク状記録媒体保持具91の弾性舌片92及び指掛け用切り欠き部93は各々3箇所を同一角度方向とし、円周上均等に設けたものである。

以下、図13(b)～図13(e)は他の変形を、実施例9の変形例として示したものであり、図13(b)に示す変形例1では、実施例9における指掛け用切り欠き部の形状を直線状の93bに形成している。

また、図13(c)に示す変形例2では、弾性舌片92cを4箇所とし指掛け用切り欠き部93cを2箇所設けている。

また、図13(d)に示す変形例3では、弾性舌片92dを2箇所とし指掛け用切り欠き部93dを2箇所設けている。

また、図13(e)に示す変形例4では、弾性舌片92e及び指掛け用切り欠き部93eを各々1箇所としている。